

2023年3月期 決算説明会

2023年5月22日

 **ワイエイシーホールディングス 株式会社**

(証券コード：6298 東証プライム)

<https://www.yac.co.jp>

▲ 将来見通しに関する記述についての注意事項

このプレゼン資料で述べる将来の当社に関する見通しは、現時点での情報を元に作成したものです。

当社グループのお客様である半導体等の業界は技術革新のスピードが速く、競争の激しい業界です。

また、世界経済、為替レートの変動、各業界市況、設備投資の動向は、当社グループの業績に直接的・間接的に影響を与える様々な外部要因があります。

したがって、実際の売上高および利益は、このプレゼンテーション資料に記載されている予想数値とは大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。



説明会概要

ご挨拶

1. 2023年3月期通期決算総括	HD代表取締役社長	百瀬 武文
2. 2023年3月期通期決算概要	HD取締役	畠山 督
3-①メカトロニクス関連事業	HD取締役	畠山 督
-②ディスプレイ関連事業	HD取締役副社長	伊藤 利彦
-③産業機器関連事業	デンコー社長	青木 康浩
-④電子機器関連事業	マシナリー社長	副島 幸雄
4. ワイエイシグループの今後の展開	大倉電気社長	大倉 章裕
5. Q&A	HD代表取締役社長	百瀬 武文



1. 2023年3月期通期決算総括

ワイエイシーホールディングス株式会社

取締役常務執行役員 富山 督

1 - ① 決算の総括



1. 売上高について

- ① 23年3月期売上高は前期比5.8%増の24,114百万円、且つ略1年分の売上高に匹敵する受注残（25,485百万円）を翌期にキャリア
- ② 各セグメントではメカトロ部門・電子機器部門が引続き堅調裡に推移

2. 粗利益について

- ① 23年3月期粗利は上記の通り、24年3月期シフトに伴う売上高不足による粗利益減が各段階利益を押し下げ

3. 営業利益について

取引先の法的整理に伴う貸倒損失（経費増）により営業利益は前期比減益

4. 受注残高について

- ① 受注残は上記の通り、略1年分の売上高に匹敵する水準を確保
- ② 過去5年間では**最高水準を達成**

5. ビジネス・プロモーションについて

- ① ライナスバイオ社との業務提携、続く資本提携、更には上級技術顧問の派遣により「Strategic Partner」としての確固たるポジションを確立
- ② 20年3月期のM & A以来、久々に「半導体検査装置関連会社」の買収を実現
- ③ 懸案のディスプレイ部門の一体化により、今後の同部門は「規模の利益追求」に軸足をシフト

6. 増配について

- ① 23年3月期は創立50周年記念配当（@25円）を加算し
年間配当は@75円(会社提案)
- ② 24年3月期は「記念配当の普通配当組入れ」により同一水準を維持
- ③ 株主還元の充実に引き続きに注力



2. 2023年3月期通期決算概要

ワイエイシーホールディングス株式会社

取締役常務執行役員 富山 督

2-① 連結損益状況【P/L】 総括



【トピックス】

前期比：増収減益決算：粗利率の減少(▲1.7%)が増収効果(+1317)を相殺
粗利益減少(▲45M) = 増収分(+333M) + 粗利率減少(▲378M)

(単位：百万円)

	2021/3期 実績①	2022/3期 実績②	2023/3期 実績③	前年対比 (③-②)		業績予想 (22/11/14) 進捗状況 (億円)
				増減額	増減率	
売上	24,195	22,796	24,114	1,317	5.8%	89% (270)
粗利	5,107	6,133	6,087	▲45	-0.7%	
粗利率	21.1%	26.9%	25.2%			
営業利益	727	1,566	1,495	▲70	-4.5%	62% (24)
営業利益率	3.0%	6.9%	6.2%			
経常利益	739	1,491	1,541	50	3.4%	70% (22)
当期利益	337	1,107	921	▲186	-16.8%	58% (16)
EPS (円)	37.19	121.49	100.57	CF : 249.91 (2024/3期予測)		

2-② 連結損益状況【P/L】 ご参考



【過去5年間の損益状況推移】

今期は増収となるも、2020年3月期の赤字決算脱却以降は、一進一退の展開

(単位：百万円)

	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期
売上	36,025	21,914	24,195	22,796	24,114
粗利	6,754	4,300	5,107	6,133	6,087
同率	18.7%	19.6%	21.1%	26.9%	25.2%
営業利益	1,842	▲ 361	727	1,566	1,495
同率	5.1%	—	3.0%	6.9%	6.2%
経常利益	1,852	▲ 443	739	1,491	1,541
当期利益	1,094	▲ 958	337	1,107	921
同率	3.0%	—	1.4%	4.9%	3.8

2-③ 連結損益状況【P/L】 セグメント情報

【トピックス】

ディスプレイ部門は一体化に伴う低採算案件の整理を実施
 今後は攻めの経営に転じ一体化によるスケールメリットを追求

(単位：百万円)

	セグメント				小計	調整	合計
	メカトロ	ディスプレイ	産業機器	電子機器			
2021/3期売上	10,168	6,686	831	6,522	24,195		24,195
同営業	573	▲ 262	▲ 259	469	521	206	727
2022/3期売上	10,866	3,639	1,021	7,269	22,796		22,796
同営業	957	10	▲ 171	629	1,425	141	1,566
2023/3期売上	11,045	4,304	1,020	7,743	24,114		24,114
同営業	1,126	▲ 465	▲ 39	763	1,384	111	1,495

2-④ 連結損益状況【B/S】



(単位：百万円)

	2021/3期	2022/3期	2023/3期	増減
流動資産	29,166	28,865	30,108	1,243
固定資産	8,341	8,131	8,631	500
総資産 計	37,508	36,997	38,740	1,743
流動負債	15,388	13,824	13,680	▲143
固定負債	7,993	7,848	9,082	1,234
負債 計	23,382	21,672	22,763	1,090
純資産 計	14,125	15,324	15,977	652

【トピックス】

限界比率の低下(37.4% = 652/1,743)により自己資本比率は悪化

	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期	増減
自己資本比率	35.9%	35.3%	37.5%	41.3%	41.1%	-0.2%

2-⑤ 連結キャッシュフロー【C/F】



【トピックス】

営業活動C/Fは運転資金要因が大幅に悪化し損益要因の増益効果を減殺

損益要因(+1,624M)+運転資金要因(▲3,260M)=▲1,636M

(単位：百万円)

	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期
前期末現金同等物	7,898	6,450	9,932	8,619
営業活動C/F	▲2,652	+3,477	+1,093	▲1,636
投資活動C/F	+44	▲540	▲195	▲742
財務活動C/F	+1,188	+548	▲2,302	+272
為替換算	▲29	▲3	+92	+39
当期末現金同等物	6,450	9,932	8,619	6,552

2-⑥ 受注状況について



【トピックス】

3 末受注残高については「約1年間の売上高に相当する受注残高」を確保

(単位：百万円)

	2022/3期 実績(12か月)		2023/3期 実績(12か月)		増 減		備 考
	受注高	受注残	受注高	受注残	受注高	受注残	
メカトロ	12,151	4,524	14,033	7,512	+1,881	+2,988	
ディスプレイ	6,549	6,665	6,181	8,542	▲367	+1,876	
産業機器	985	123	1,041	144	+29	+21	
電子機器	8,945	7,861	9,167	9,286	+221	+1,424	
合計	28,632	19,174	30,425	25,485	+1,792	+6,310	

	2018/3期	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期
受注残	22,892	12,329	16,907	13,338	19,174	25,485

セグメント情報

3-① メカトロニクス関連事業

ワイエイシイホールディングス株式会社

取締役副社長

ワイエイシイメカトロニクス株式会社

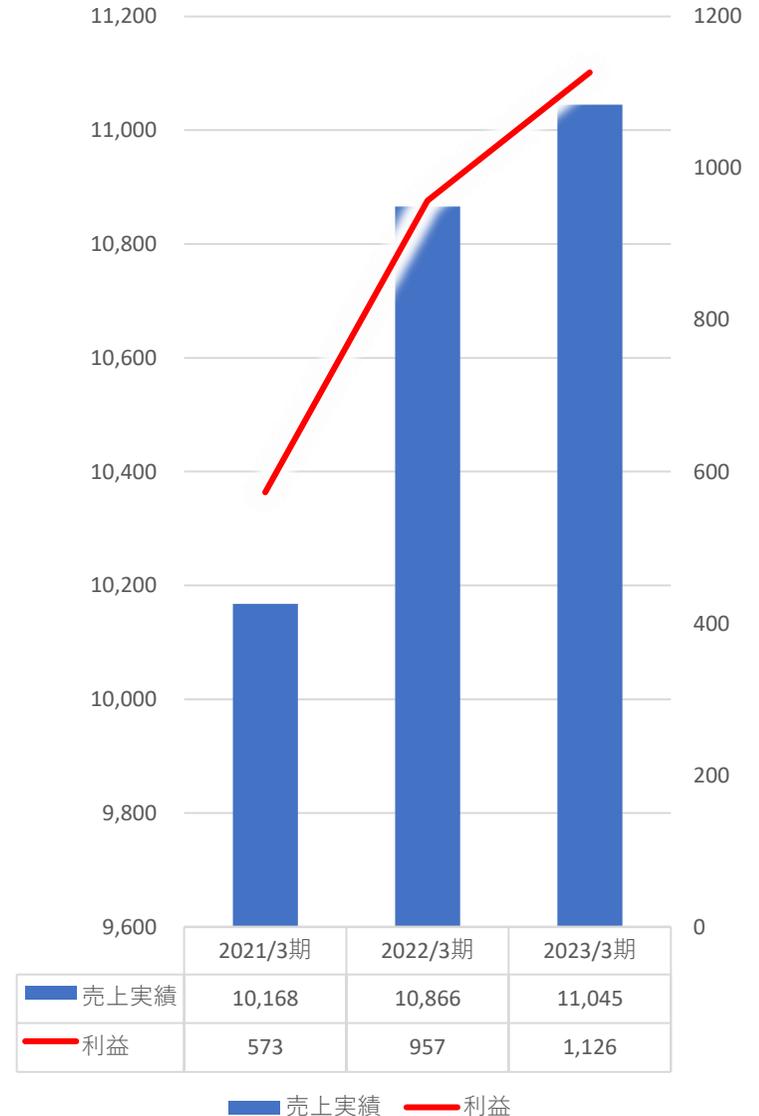
代表取締役会長

伊藤 利彦

2023年3月期通期分析

- **3年連続増収増益**
- **前年度比は好調であるが、各予算では未達**
- **分析**
 - ① HDD関連、設備投資が後倒し
 - ② 電子部品市場悪化による、キャリアテープ売上減少
 - ③ パワー系を含めた半導体業界向け装置は好調
 - ④ サプライチェーン混乱による、装置製作期間の長期化
 - ⑤ 期末受注残は過去最高額を達成

単位：M円



2024年3月期目標と施策

●受注残：7,512M（2023年3月末時点）

●売上高：15,704M

●懸念

①今期も、HDD関連設備投資後倒しの予測

②電子部品業界復調のタイミング遅れ

③装置製作期間の長期化

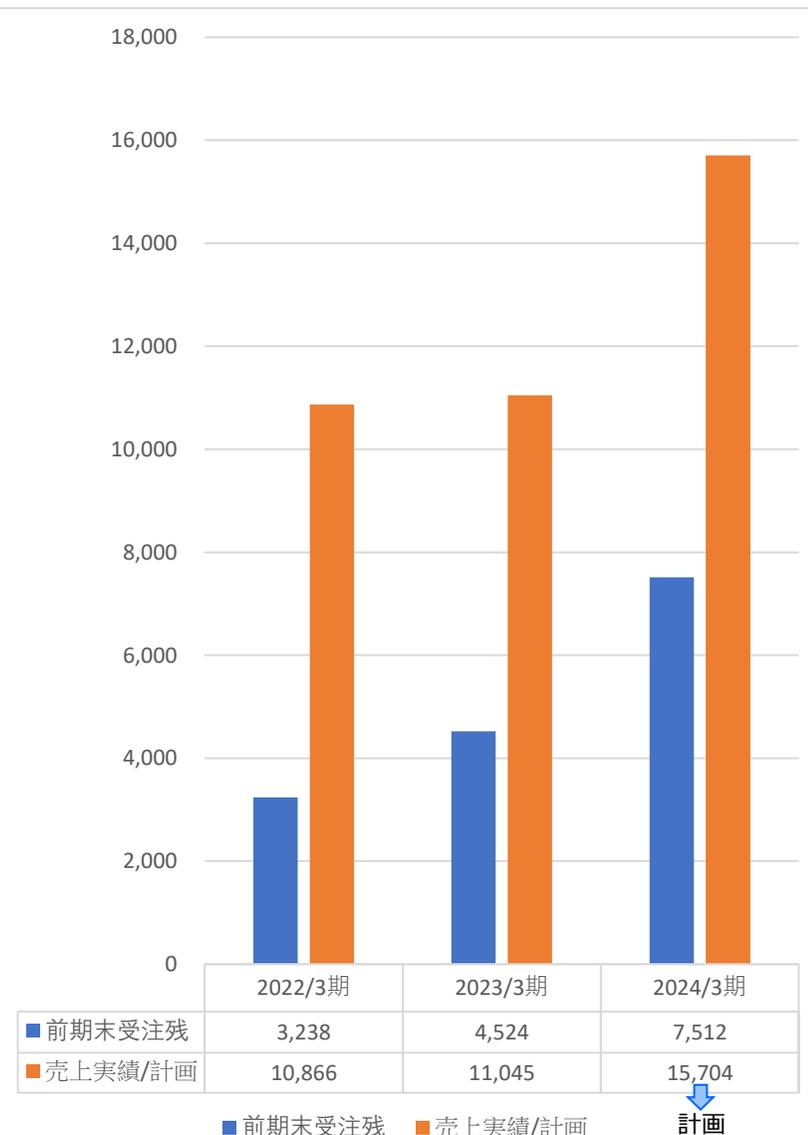
●施策

①好調な半導体市場向け装置に注力

②キャリアテープ、適材適所生産、タイムリーな
設備投資

③集中購買を含め、原価低減による粗利アップ

単位：M円





セグメント情報

3-② ディ스플레이関連事業

ワイエイシイデンコー株式会社

代表取締役社長 青木 康浩

3-② ディ스플레이関連事業 通期分析



2023年3月期通期分析

● 受注

ディスプレイパネルの需要が一時的に低下しているものの、受注高は**前年度比93.8%の高水準**を維持した結果となった。主に、OLED(有機EL)/OXIDE(酸化物TFT)等の高付加価値プロセス向けの設備投資需要に当社製品が適合したことで好結果に繋がった。

● 売上

当社顧客の投資時期の遅延およびサプライチェーンの混乱等により装置出荷が遅れ、売上高は予算に対して大きく未達成となったが、**前年度比118.3%の好結果**となった。

● 利益

ディスプレイセグメントでは、安定した経営基盤の確立に向け、利益体質強化への取り組みを継続実施。前年度はセグメント利益を確保したが、2023年3月期は、部材高騰による原価高等により大幅な損失を計上。

● 受注残

前年度受注残高は、受注高維持と2023年3月期の売上遅延に伴い、**前年度比128%の好結果**となった。

単位：M円

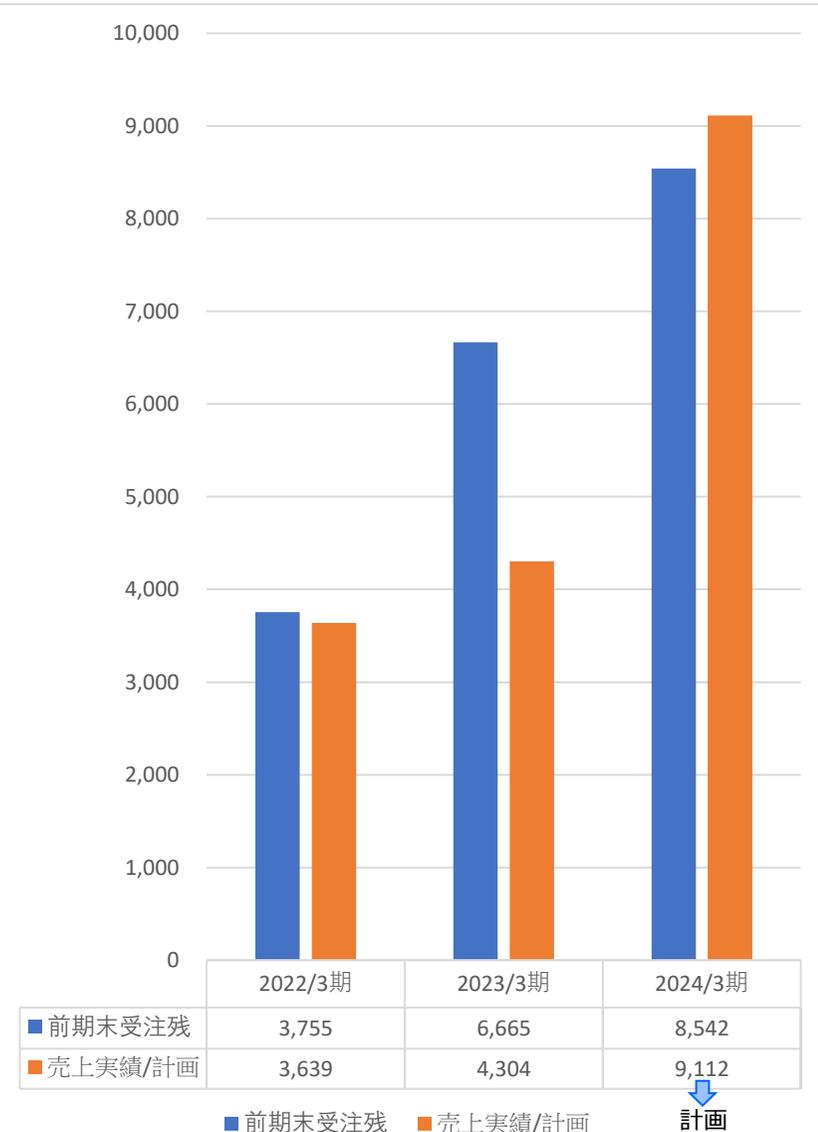


3-② ディ스플레이関連事業 今期目標、施策

2024年3月期今期目標と施策

- 受注残：8,542M円(2023年3月期)
- 売上高：9,112M円
- 懸念
 - ①ディスプレイパネル製造設備の投資停滞
 - ②ディスプレイパネルの需要停滞および設備稼働低下
 - ③部材高騰、長納期化等、サプライチェーンの混乱
- 施策：
 - ①高付加価値プロセス適合を強みにした販売戦略
 - ②設備の稼働向上に伴うアフターサービスの拡大
 - ③部品の共通化や在庫等によるコストと納期対応
 - ④ディスプレイ以外の様々な業界に向けた熱処理設備等の販路拡大

単位：M円





セグメント情報

3-③ 産業機器関連事業

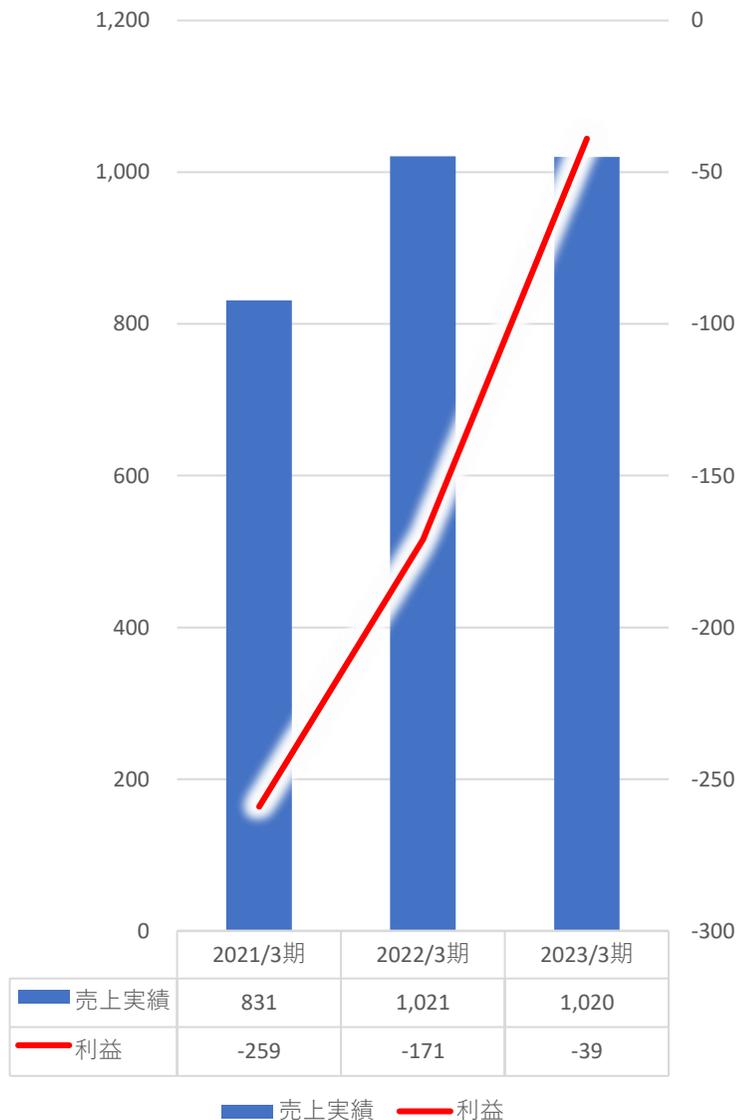
ワイエイシイマシナリー株式会社

代表取締役社長 副島 幸雄

2023年3月期通期分析

- 事業転換の加速が悪い。差別化の開発的要素十分にあるので確実に実行する。
- ホームクリーニングは、受注量は増えない。特に大型店は工場を縮小し、装置は閉鎖工場からの流用で新規投資は厳しい。売上は下降傾向がコロナで過度に落ち込んだが、前期はこう配を通常下降に戻すことが出来た。
- 産業クリーニングは、医療リネンに注力し新機種であるX線検査装置を展開できた。今後はこの拡販とまだ医療系で開発する機種があるので投入を急ぐ。
- EC物流に注力し、大手ユーザーが当社包装システムを使用している。現在は衣類包装を主体としているが今後は別展開も視野に入れている。

単位：M円



3 - ③ 産業機器関連事業 今期目標、施策

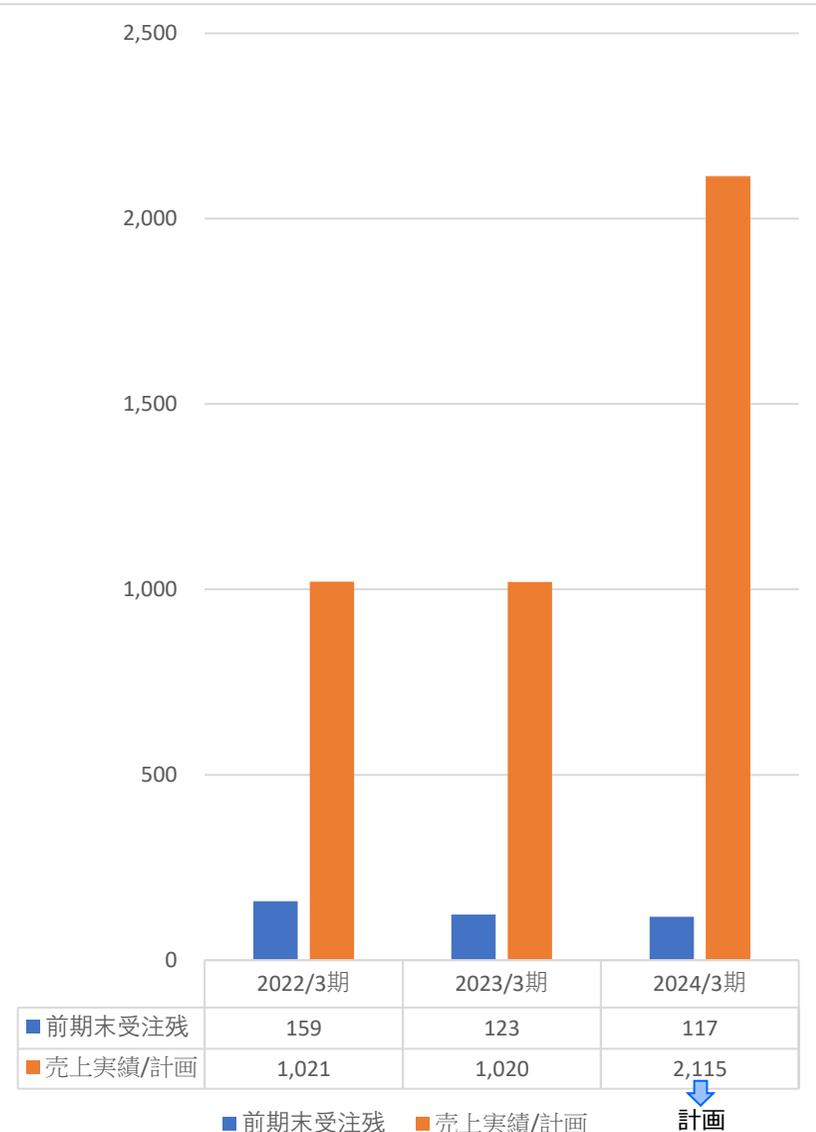


2024年3月期今期目標と施策

- 受注残：300M円
- 売上高：1,500M円
- 課題と施策：

- ①ホームクリーニングはバージョンアップ機の投入。キーワードは脱プラスチック、省エネ、生産効率アップである。
- ②産業クリーニングは、新機種投入を更に続け売上倍増を図る。コロナ感染症が5類となるのでホテル稼働率が増す。ユニフォーム系が更に増えることで拡販を図る。
- ③EC物流系において、物流の24年問題が大きな課題となる。これは運送業だけの問題ではなく、物流倉庫の強化で作業者の人手不足も問題となる。自動化やロボット化を早く進め解決することが当社の売上倍増以上の決めてである。

単位：M円



セグメント情報

3-④ 電子機器関連事業

ワイエイシーホールディングス株式会社

取締役専務執行役員

大倉電気株式会社

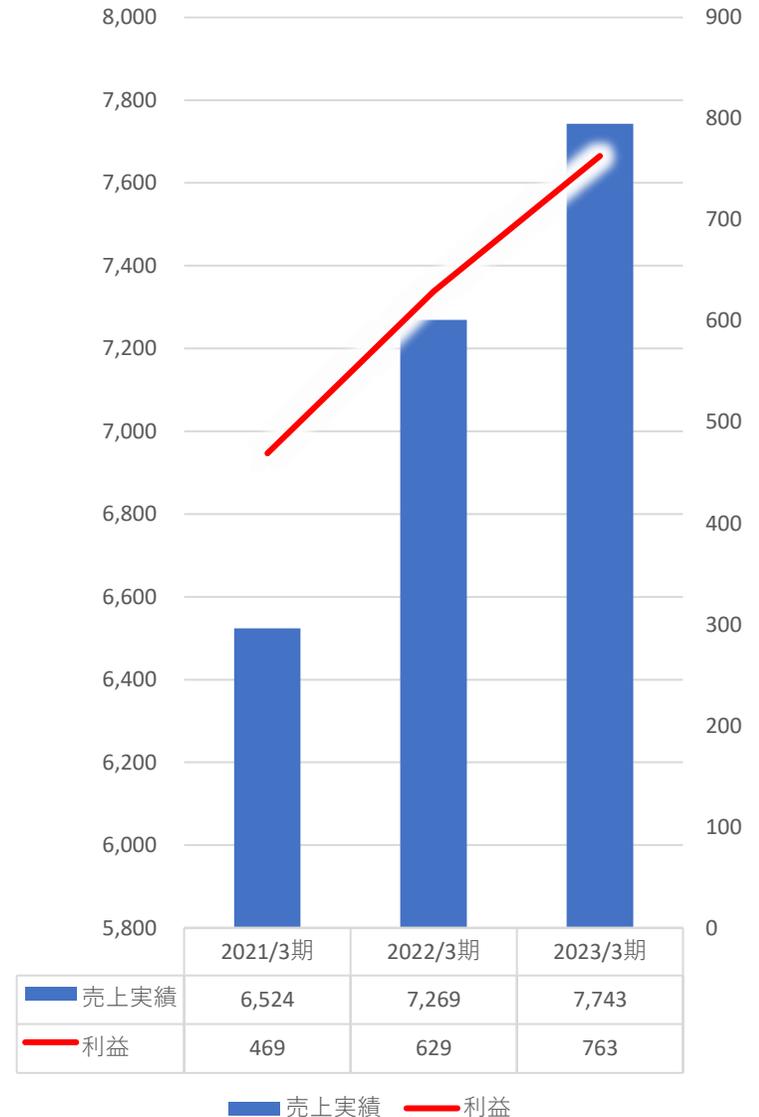
代表取締役社長

大倉 章裕

2023年3月期通期分析

- 電子機器関連事業全体としては、上期に部品調達に苦慮するも、下期は透析装置の生産も安定し、電力関連の売上也順調に推移した結果、**過去3年増収増益を確保**
- メディカル部門：透析装置は、中南米中心に依然として需要は旺盛。
但し、調達コスト低減、生産性に改善の余地あり
- 制御通信、工業計器部門：燃料費が高止まりのため、**再生エネルギー関連への設備投資は継続。**
また、原子力発電所再稼働が進み、工業計器の商談が増加傾向
- 半導体業界は一服感はあるが、**装置中心に長納期部品があるため前倒して受注**

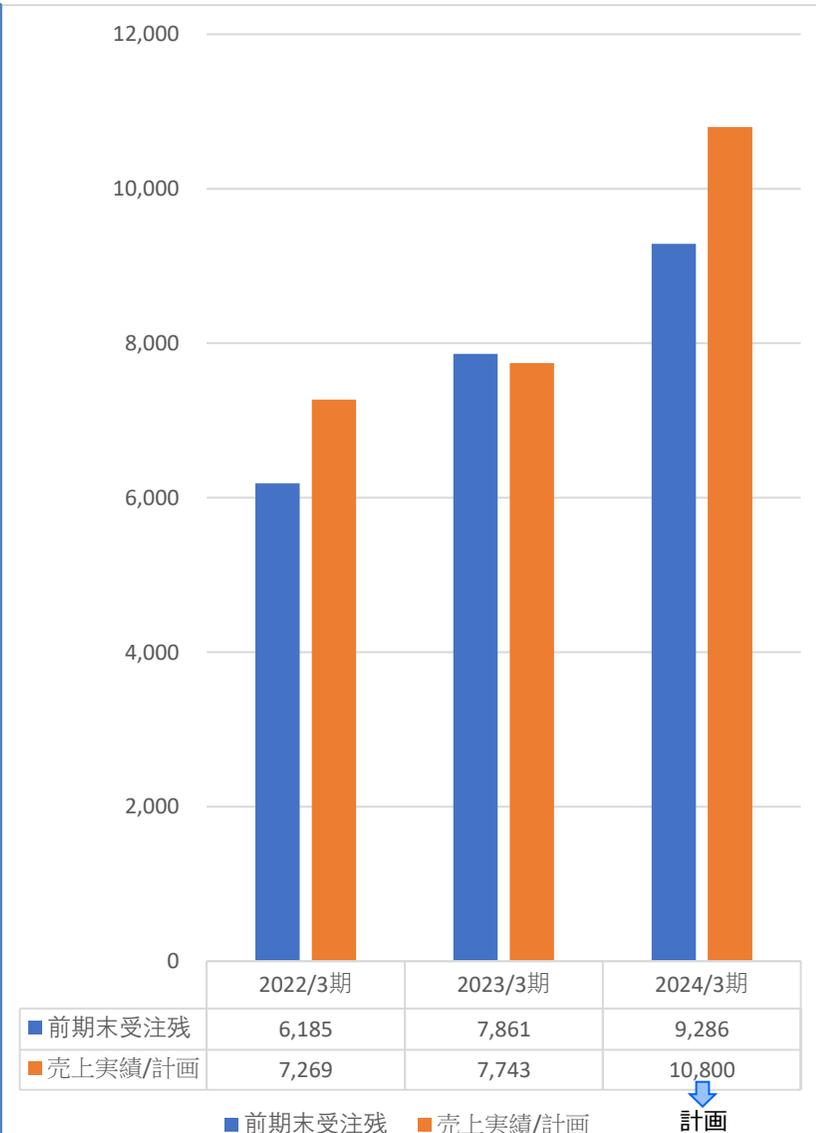
単位：M円



2024年3月期目標と施策

- 受注残：2024年3月期**92億円。昨年比増加**
- 売上高：受注残ベースで見込みがたっている。
新規開発透析装置の販売が寄与
- 懸念：**透析装置のコスト管理。半導体市場の需要減速**
- ・人工透析器：需要増が見込める中南米市場に対して、**質の高い装置の提供。新透析装置の認証を遅滞なく取得**
- ・制御通信、工業計器事業：電力関連の情報伝送装置を中心とした**新規開発案件創出。原子力再稼働に向けた商談掘り起こし**
- ・半導体装置：部品調達中心に**生産体制確立**

単位：M円





4. ワイエイシイグループの今後の展開

ワイエイシイホールディングス株式会社

代表取締役社長

百瀬 武文

4-① ワイエイシイグループ 企業理念



【創業理念】 (1973年)

継続発展

1. 技術集約会社
2. 旺盛なバイタリティー
3. リスクに果敢にチャレンジする
4. 少数精鋭主義

【成長理念】 (1985年)

社会貢献

1. 社員の豊かさを追求する（経済的・精神的）
2. 国・地方自治体に、より多く納税する
3. 新製品の創造・提供
4. 地域社会への貢献
5. 株主を優遇する
6. 環境保全のため省資源・省エネルギーを図る

【究極の理念】 (2020年)

SDGs

～より多く社会に貢献するために～

1. 社員・グループの成長
2. 全員経営・連携と競争
3. SDGs経営の推進
4. 納税額の拡大

4-② 企業理念を追求する当社の姿

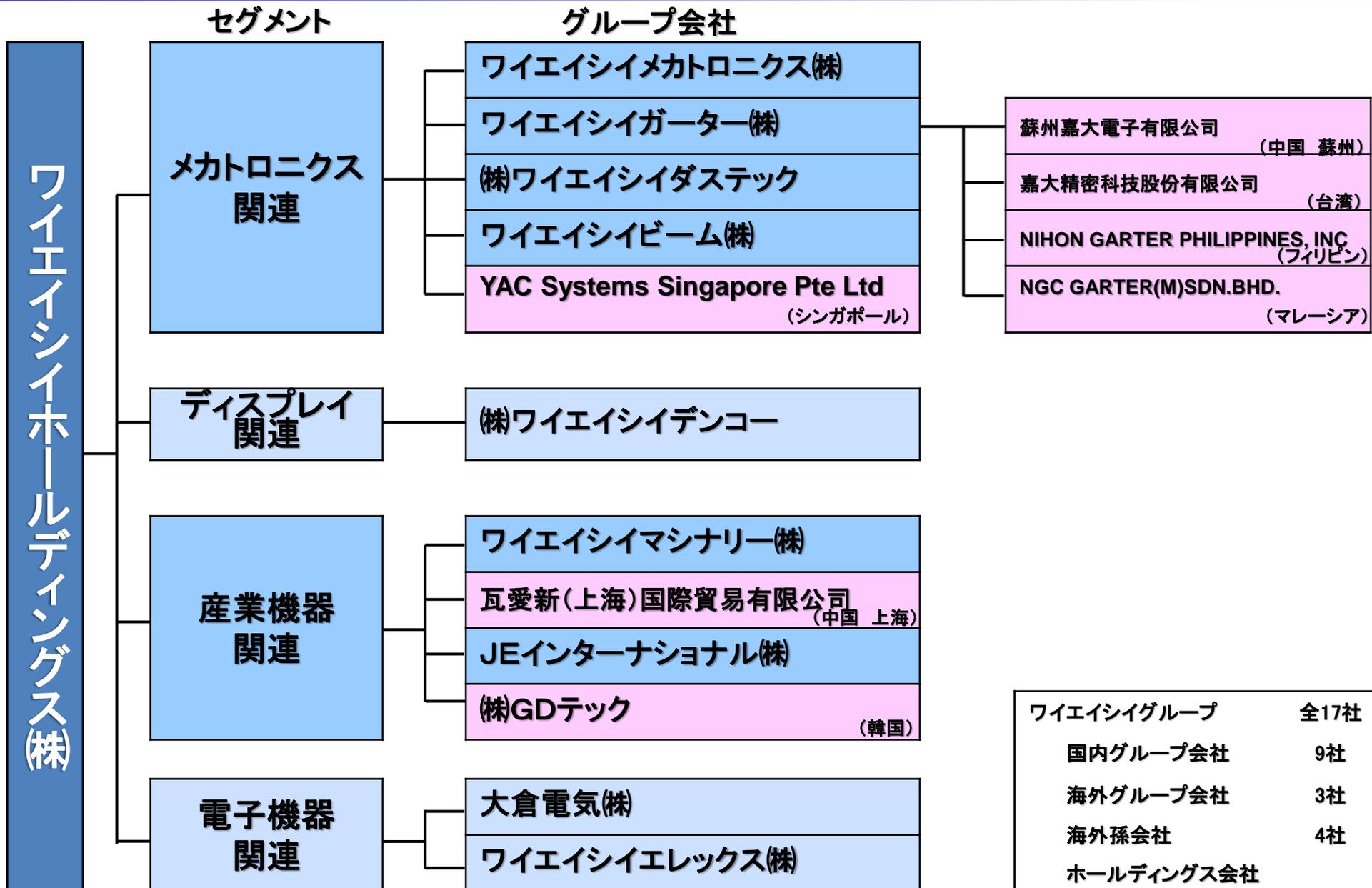
1. 基本的条件 あるべき姿

①継続し発展する ……	部下・家族・自分・社会・国家のため
②赤字は社会悪 ……	経営者として最も恥ずかしいことである
③社会貢献 ……	常に成長し、かつ利益を通じて
④SDGs ……	持続可能な社会へ、いくつものカーボンニュートラルに通ずる量産新製品の開発
⑤プライム市場 …… (株主は投資家中心)	成長あるのみ。宿命である。使命である。 成長は、すべてがハッピー。

2. 当社グループの文化は

成長へ、そして更なる成長へと、困難な事態にも決してあきらめず、
全員経営の理念のもと、明るく元気よく、ポジティブな挑戦を続け、成
長への喜びを感じながら、より多く社会貢献を目指す企業集団である。

4-③ ワイエイシイグループの構成



ワイエイシイグループ	全17社
国内グループ会社	9社
海外グループ会社	3社
海外孫会社	4社
ホールディングス会社	

4-④ 創立50周年最高値凌駕



(1) 2024年3月期 セグメント別予算

(百万円)

セグメント	2023年度 売上予算	前期末 受注残	売上予算に対する 受注残の割合
メカトロニクス	15,700	7,512	47.8%
ディスプレイ	9,000	8,542	94.9%
産業機器	1,500	144	9.6%
電子機器	10,800	9,286	86.0%
合計	37,000	25,485	68.9%

通期予想	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	一株あたり 利益
予想値	37,000	3,700	3,600	2,300	249.91円
伸び率	53.4%	147.3%	133.5%	149.7%	—

4-⑤ 創立50周年最高値凌駕



(2)2024年3月期 予算凌駕への戦略

(1)4大テーマの推進

1. 営業改革	①コンタクト数UP ②組織的営業活動、効率UP
2. 粗利率UP	①依命システムの完全実行 ②稼働率UP ③ミス防止
3. 経費削減 売掛金回収	①経 費：予算以下 ②売掛金：上期中をメド
4. 全員経営	①職場内コミュニケーション ②ヤル気満々 ③目標凌駕への職場の一体感

(2)B to C的事業の推進

1. ライナス社との共同事業
2. 生分解事業

1. 成長への基本戦略

(1) 成長への分野別比率

①既存分野による成長	5%以上 (2030年までに+50億円)
②量産新製品の完成による成長 (大量量産新製品の誕生)	60%以上 (2030年までに+450億円)
③M&A、アライアンスによる成長	30%以上 (2030年までに+250億円)

(2) グループ6社以上が売上100億を超えている

(3) すべて社員から定期的に量産ニーズの提案

4-⑦ 2030年への成長戦略



(4)ワイエイシイグループで100億円越えへの挑戦(可能性大)

①ライナスバイオ社との共同事業	プロジェクト
②SDGs	マシナリー
(紙・生分解によるEC物流向け包装機)	
③SDGs(生分解シート・成形品)	プロジェクト
④人工透析装置	エレックス
⑤パワー半導体	ビーム、メカトロニクス
(レーザアニーラ、SiCチップハンドラ等)	
⑥キャリアテープ	ガーター
(プラスチック、紙、生分解)	
⑦ディスプレイ	デンコー
⑧アルツハイマー型認知症発見装置	新規事業開発部
⑨AOI(自動光学検査装置)	JEI

(5)ライナス社とのビジネス

1. 基本契約 …… 両社の共同事業推進(当社10億円の投資を実行)

2. 事業内容 …… 各種疾病の検査

＜当面の対象となる疾病＞

- | | |
|------------------|--------------|
| ①自閉症 | ④PD(パーキンソン病) |
| ②ALS(筋萎縮性側索硬化症) | ⑤癌 |
| ③ADHD(注意欠陥多動性障害) | ⑥膠芽腫(こうがしゅ) |

3. 当社の売上対象

- | | |
|--------|-----------|
| ①装置開発費 | ③消耗品 |
| ②装置製造 | ④アフターサービス |

4. アジア地域のビジネスは当社主体で運営する(ライナス社の指導)

(米国、EU、中東はライナス社主体で運営)

(1)設備

(2)検査事業展開

- | | |
|---------------|-----------------|
| ①髪の毛受け入れ(有償) | ④検査結果の集計 |
| ②検査の実行 | ⑤集計データをライナス社に販売 |
| ③検査結果のフィードバック | |

100周年(2073年)に向かって 売上規模 3兆円以上を目指す

1. 現在進行中の100億円規模のテーマの拡大

- | | |
|-----------|--------------|
| (1)ライナス | (5)キャリアテープ |
| (2)生分解 | (6)ディスプレイ |
| (3)人工透析 | (7)認知症早期発見装置 |
| (4)パワー半導体 | (8)AOI |

2. ビジネスモデルの転換

- (1)少ロット品から、大量生産品への積極的展開
- (2)B to Bに加え、B to Cへの積極的展開

3. M&A、アライアンス

4. 常に量産新製品のニーズの取り込みを重視

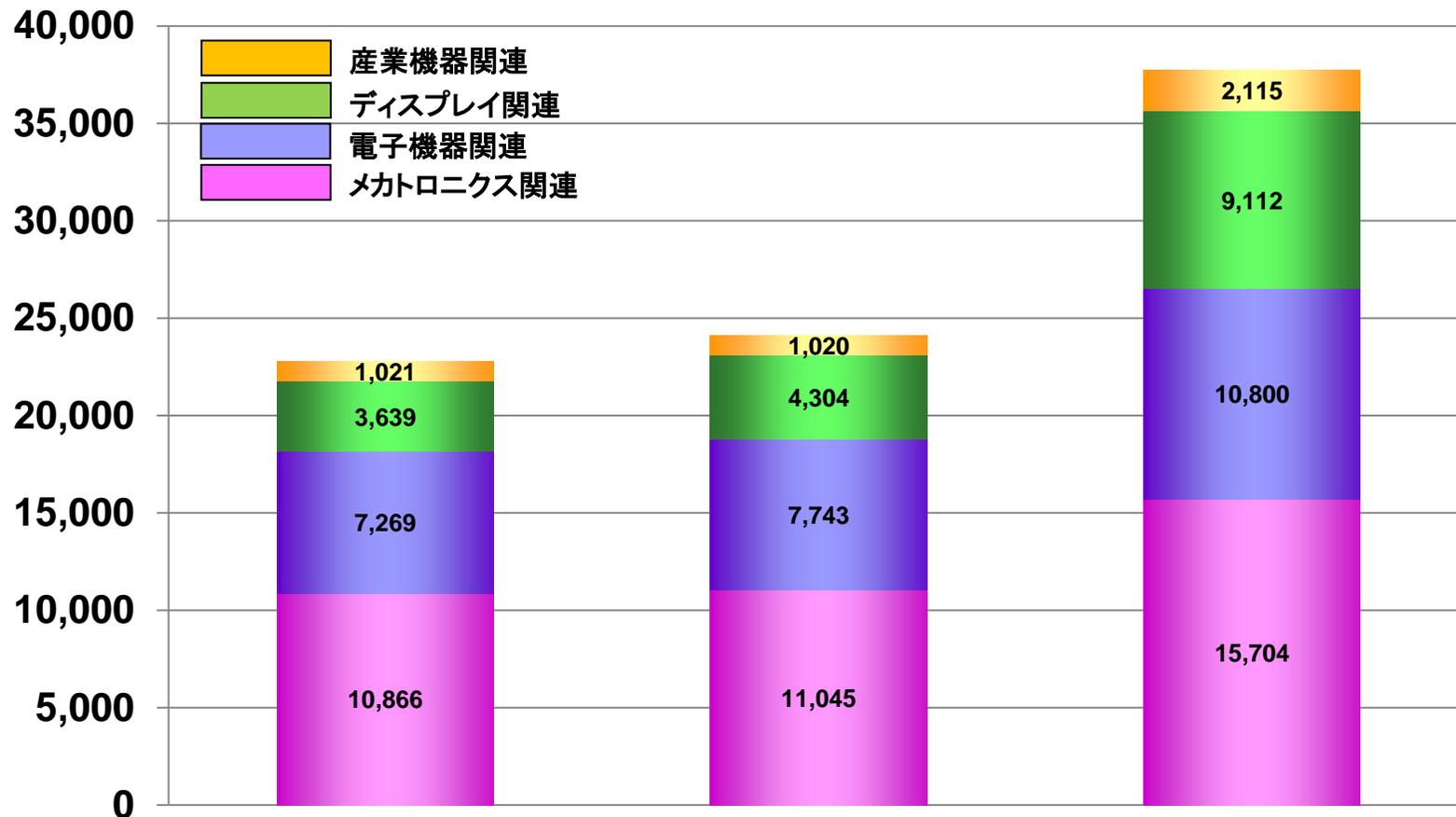


APPENDIX

① 事業別売上計画



(単位:百万円)



2022年3月期(実績)	2023年3月期(実績)	2024年3月期(計画)
通期売上:22,796	通期売上:24,114	通期売上:37,731

② 事業結果



(単位:百万円)

	2022年3月期	2023年3月期	前年比 増減額	前年比 増減率(%)
売上高	22,796	24,114	1,317	5.8%
営業利益 (営業利益率)	1,566 (6.9%)	1,495 (6.2%)	△70	△4.5%
経常利益	1,491	1,541	50	3.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,107	921	△186	△16.8%
1株当たり 当期純利益(円)	121.30	100.57	△20.73	△17.1%
研究開発費	518	357	△161	△31.1%
設備投資額	308	757	449	145.8%
減価償却実施額	526	512	△14	△2.7%

③ 事業別売上・利益



(単位:百万円)

		2022年3月期	2023年3月期	前年比 増減額	前年比 増減率	備考
メカトロニクス 関連	売上	10,866	11,045	179	1.6%	クリーンコンベア及び各種 自動搬送システム装置へ の堅調な需要とイオンミリ ング装置が好調に推移
	利益	957	1,126	169	17.7%	
ディスプレイ 関連	売上	3,639	4,304	665	18.3%	遠赤外線熱処理装置は堅 調に推移するも、ドライエッ チング装置で低採算
	利益	10	△465	△475	△4,750%	
産業機器 関連	売上	1,021	1,020	△1	△0.1%	クリーニング事業からの事 業転換が不十分
	利益	△171	△39	132	77.2%	
電子機器 関連	売上	7,269	7,743	474	6.5%	電力会社向け制御通信機 器が順調に推移
	利益	629	763	134	21.3%	
HDその他	利益	141	111	△30	△21.3%	
合計	売上	22,796	24,114	1,318	5.8%	
	利益	1,566	1,495	△71	△4.5%	

④ 事業別受注額・受注残 (連結ベース)



(単位:百万円)

		2022年3月期	2023年3月期	前年比 増減額	前年比 増減率
メカトロニクス 関連	受注額	12,152	14,033	1,881	15.5%
	受注残	4,524	7,512	2,988	66%
ディスプレイ 関連	受注額	6,549	6,181	△367	5.6%
	受注残	6,665	8,542	1,876	28.1%
産業機器 関連	受注額	985	1,041	56	5.7%
	受注残	123	144	21	17%
電子機器 関連	受注額	8,945	9,167	221	2.5%
	受注残	7,861	9,286	1,424	18.1%
合計	受注額	28,632	30,425	1,792	6.3%
	受注残	19,174	25,485	6,310	32.9%

⑤ 貸借対照表のレビュー



<資産>

(単位:百万円)

	2022年3月	2023年3月	増減額	備考
現預金	8,695	6,628	△2,067	
売上債権	10,572	11,282	710	
棚卸資産	8,846	11,181	2,335	
その他流動資産	751	1,015	264	
固定資産	8,131	8,631	500	
資産合計	36,997	38,740	1,743	

<負債・純資産>

(単位:百万円)

	2022年3月	2023年3月	増減額	備考
仕入債務	5,219	5,252	33	
その他流動負債	8,604	8,428	△176	
固定負債	7,848	9,082	1,234	
純資産	15,324	15,977	652	
負債・純資産合計	36,997	38,740	1,743	

⑥ キャッシュフローのレビュー

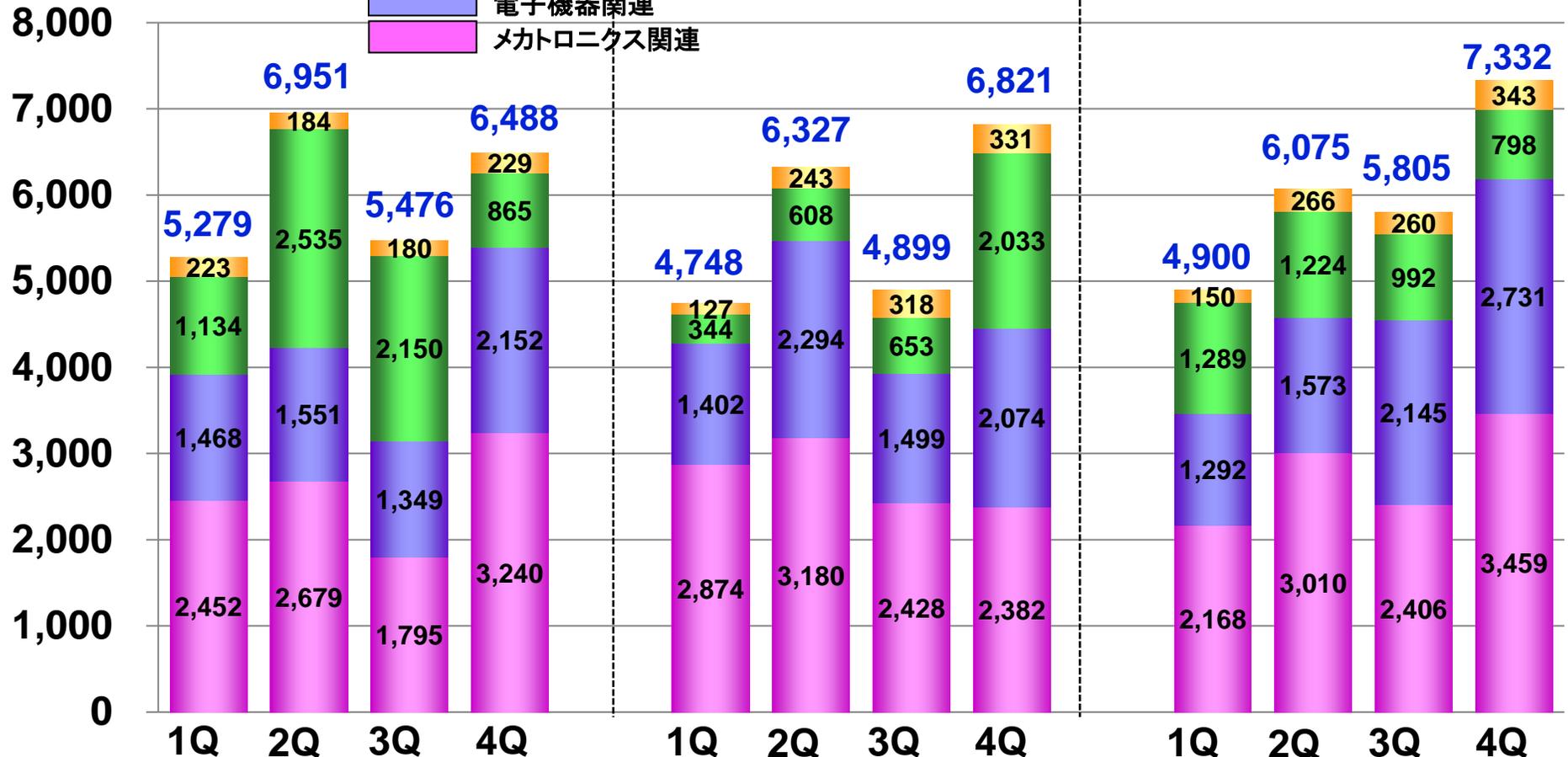


(単位:百万円)

	2022年3月期	2023年3月期	主な増減要因	
営業活動によるC/F	1,093	△1,636	増加	税金等調整前当期純利益・減価償却費の増加
			減少	有形固定資産の取得
投資活動によるC/F	△195	△742	増加	
			減少	有形固定資産の取得による支出
財務活動によるC/F	△2,302	272	増加	長期借入金の増加
			減少	長期・短期借入金の返済
現金及び現金同等物の期末残高	8,619	6,552	前年度末比2,067百万円減少	

売上高

(単位:百万円)



2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
通期売上: 24,195	通期売上: 22,796	通期売上: 24,114

⑧

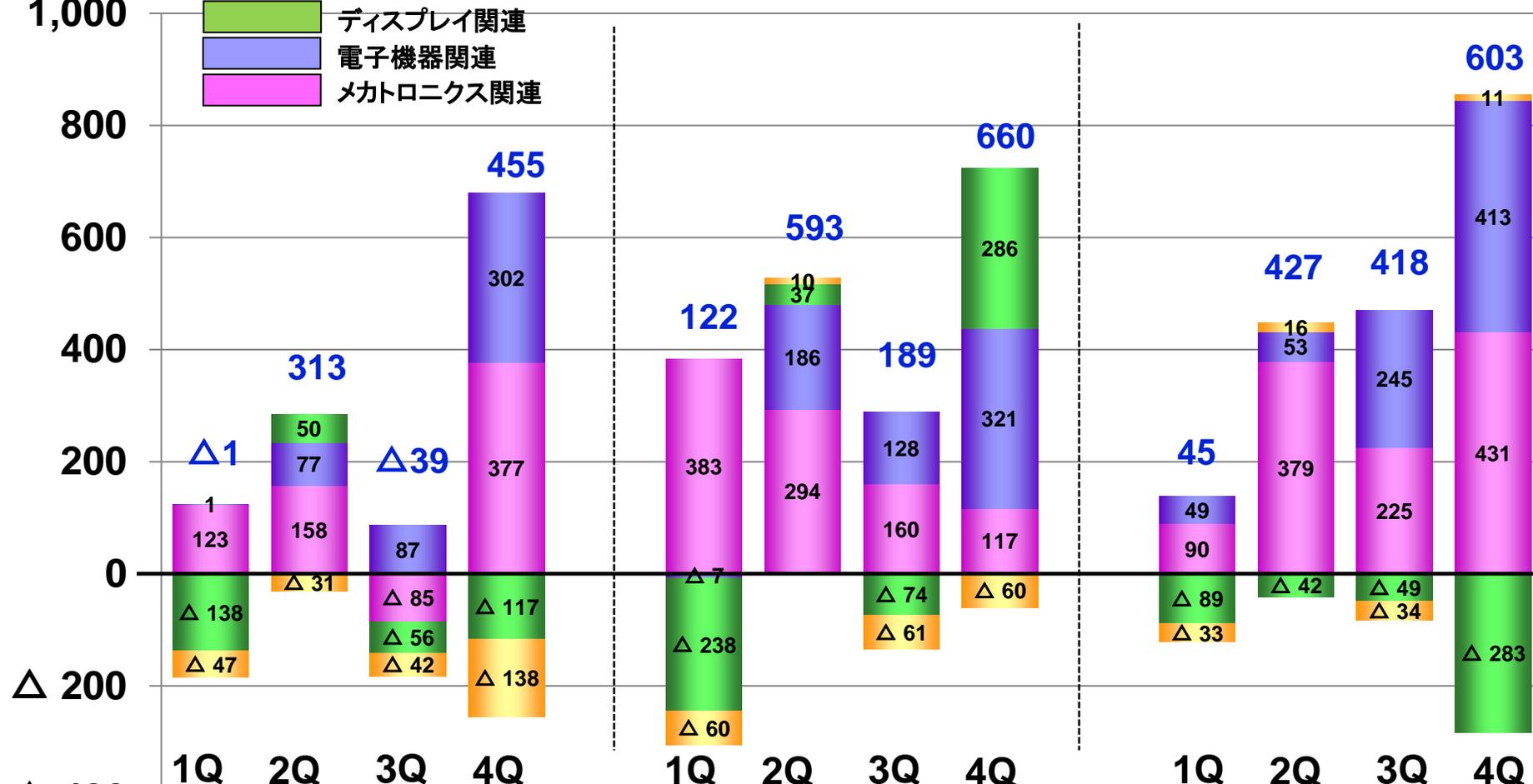
事業別四半期毎 営業利益



営業利益
1,000

(単位:百万円)

- 産業機器関連
- ディスプレイ関連
- 電子機器関連
- メカトロニクス関連



2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
通期営業利益: 727	通期営業利益: 1566	通期営業利益: 1,495

(連結ベース)

(単位:百万円)

18,000

16,000

14,000

12,000

10,000

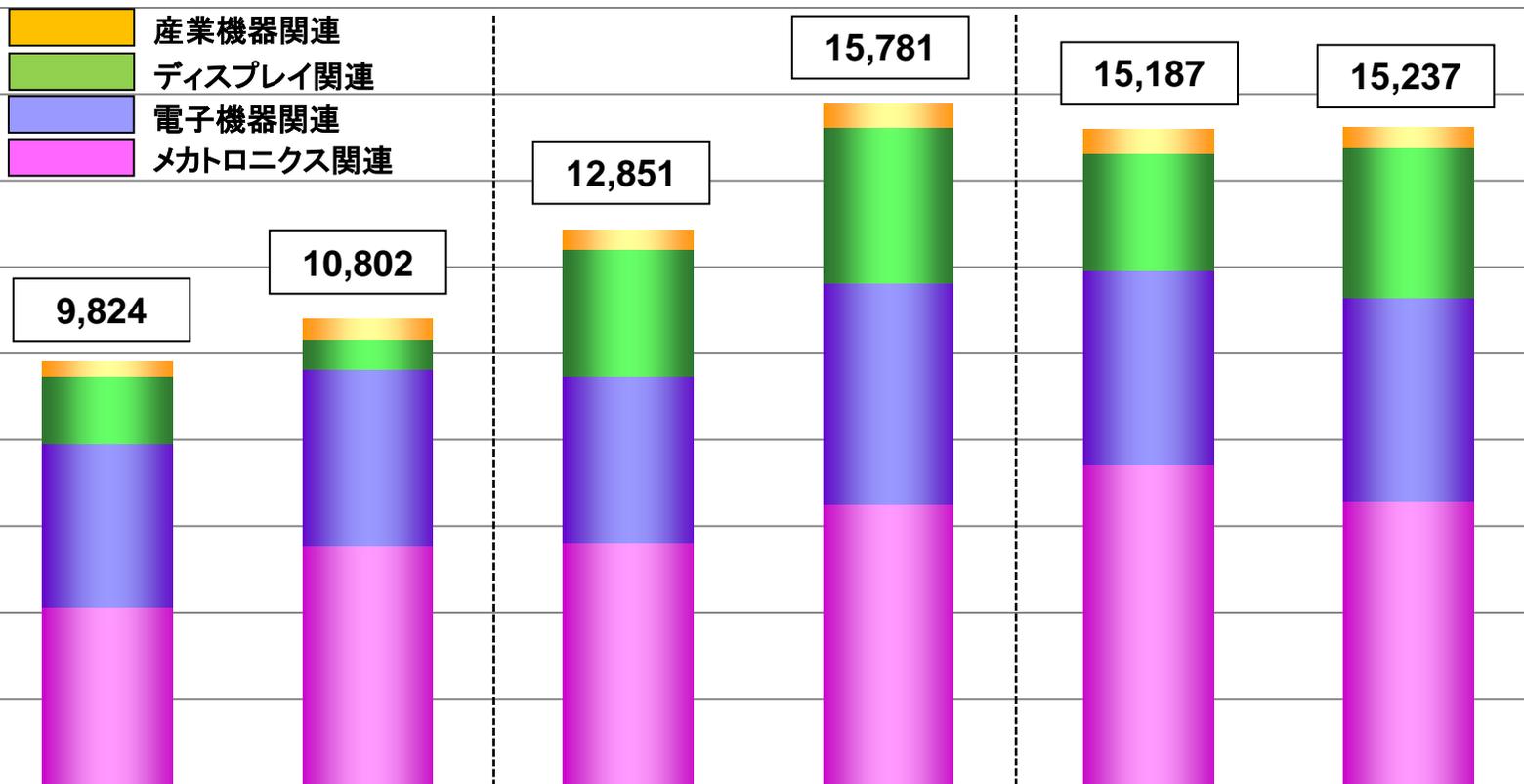
8,000

6,000

4,000

2,000

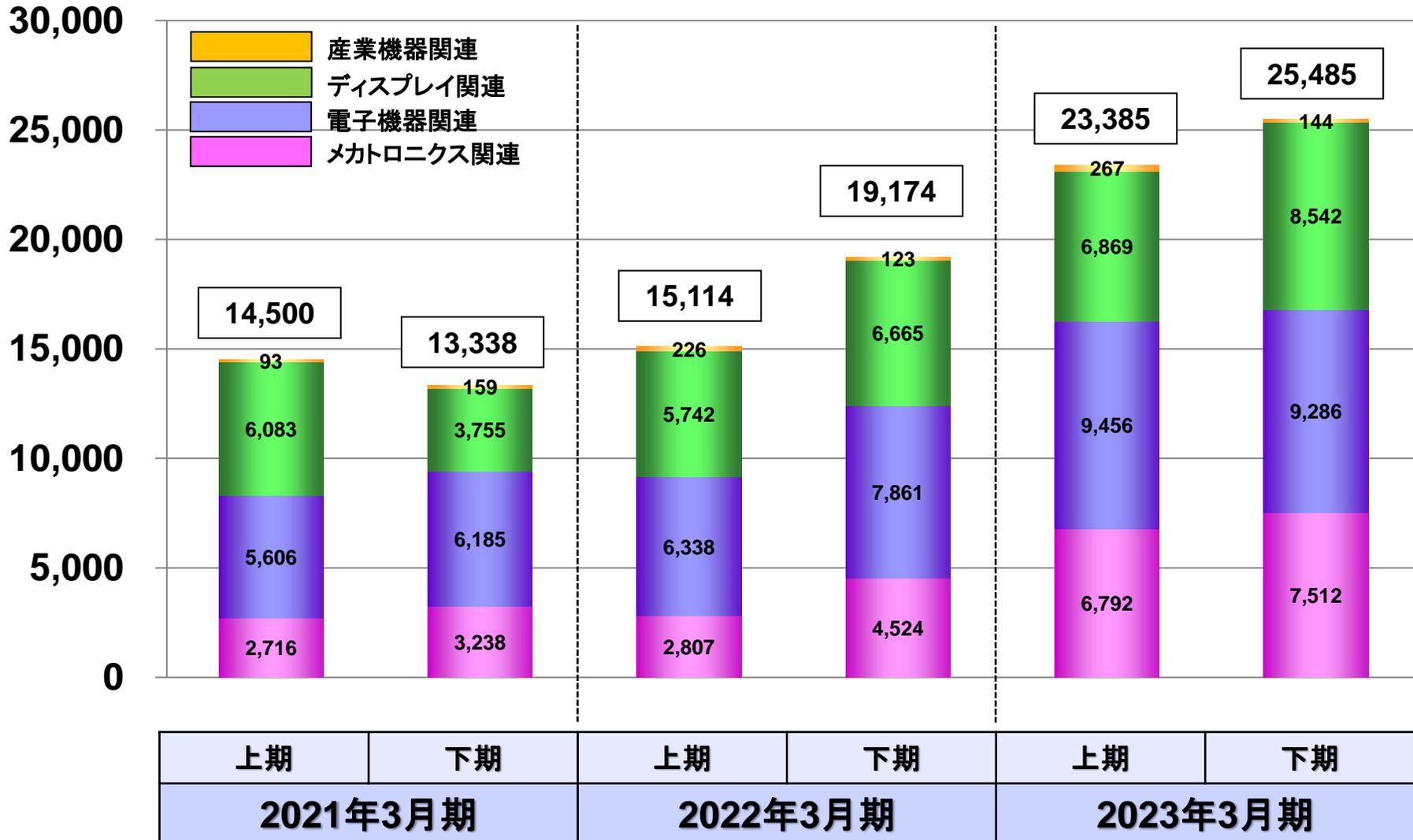
0



上期	下期	上期	下期	上期	下期
2021年3月期		2022年3月期		2023年3月期	
通期受注高 20,626百万円		通期受注高 28,632百万円		通期受注高 30,425百万円	

(単位:百万円)

(連結ベース)





さあ今日も、明るく、元気よく
ときめきと感動の日々であれ！

く な や か 先 端 技 術 企 業 集 団
 **ワイエイシーグループ**